

令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立義務教育学校八束学園前期課程)

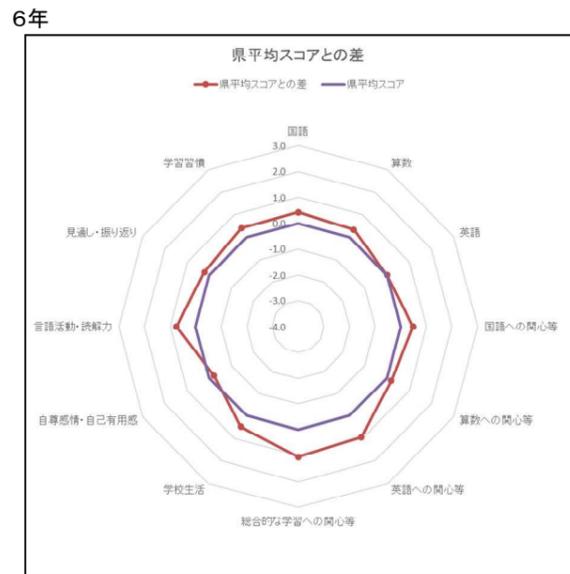
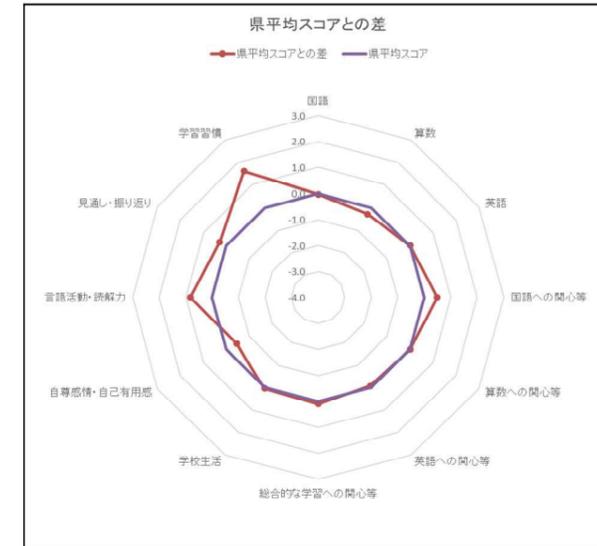
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○話す・聞く区分が得意で、短答式・選択式問題の正答率が高い。 ○30分以上の家庭読書をする子の正答率が高い。 ●記述式の無回答率が高く、ローマ字の習得にも課題。 ●文の主語と述語の関係を正しく理解することに課題がある。	・30分以上の家庭読書の習慣化と幅広い選書を、司書教諭や司書と連携しながら指導する。 ・他教科と連携しながら、資料(グラフ・表・地図など)の読み取り技能を高める。
	算数	○全体的に平均に達することが出来なかった中で、記述や活用問題であきらめずに頑張った結果が出ている。 ●県平均6ポイント下回っている。 ●下位層の対応が必要である。 ●基礎・基本の定着(四則計算)	・習ったことをきちんと理解できるよう、計算会やミニテストをする。 ・実態を把握して、個々にあった課題と演習時間の確保。 ・図形をかいたり、切ったりなど数学的活動を取り入れる。
6年	国語	○すべての区分で県平均を超えていた。 ○特に「話す・聞く」と「伝統的な言語文化と国語の特質」の正答率が高い。 ●文の修飾語と被修飾語の関係を正しく理解することに課題がある。 ●グラフや図と文章を関連づけて読むことに課題がみられる。	・幅広い選書での読書をする中で、語彙量や知識量を増やす。 ・新聞などの記事を視写したり、その記事についての感想をかくなど、定期的な書く活動を行う。
	算数	○県平均より7ポイント上回っている。(昨年度より上がった) ○無回答率が低くなった。 ○計算会などによる積み上げの成果が出ている。 ●記述式の問題に課題がある。	・自分の考えを説明したり、ノートに記述したりする活動を入れる。 ・数量関係を表す活動や図から読み取る活動を取り入れる。 ・改善してきているが引き続き図形の構成要素等に注目して定義や性質について理解を深めるようにしていく。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○全体的に県の平均を上回っていることから、学ぶことへの意欲が高いように思われる。 ●難しいことでも失敗を恐れないで挑戦することに困難を感じる児童がいる。	・見通しをもたせたり、視覚的な支援等を行ったり、個別の支援の手立てを更に行っていく。
	家庭学習に関わる事項	○学校の授業の予習復習をきちんと行っている。 ○自分で計画を立てて勉強をしている児童が多い。 ●携帯電話の使用時間が長い。	・来年度、保護者・児童・生徒を含めてメディアの研修会を行う予定である。家庭と学校が共通理解をしてしっかりと取り組む必要がある。
6年	授業改善に関わる事項	○国算の学習が好きで、よく分かると感じている児童が多い。 ○授業では、問題解決的な活動を多くし、皆で協力してやり遂げたという達成感がある。 ○学習規律がきちんと守られている。	・引き続き、児童一人ひとりの実態と、抱える困難さの原因を考慮した上で支援を考える。誰にとっても分かりやすい授業を実践していく。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習に1時間以上取り組んでいる児童が多く、復習をしっかりと行っている。 ●自分で計画を立てて勉強する児童がやや少ない。 ●地域や社会の問題に関心が低い傾向がある。地域の行事等への参加はしているが、問題や課題意識はやや低い。	・引き続き、自主学習の方法や内容、限られた時間の使い方等について、「家庭学習の手引き」を活用した指導を積み重ねる。 ・新聞を読む習慣をつけたり、新聞を使った行動(1分間スピーチや時事クイズ等)を入れたりする。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	59	52
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 21人

各スコアの範囲は-4から+3まで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	59	66
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 31人

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

